

令和元年年 5月 8日

平成30年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部
氏 名 森 久綱

活動テーマ	エコフィードの利活用による地域酪農・畜産の振興
実施期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>1. 研究会開催 (2018年9月)</p> <p>県内畜産経営者、廃棄物処理事業者、県担当者などとの食品循環資源をめぐる政策及び優良事例についての意見交換。</p> <p>2. 現地検討会 (2019年1月)</p> <p>研究会メンバーによる廃棄物処理事業者への訪問調査 (先進的な食品循環資源の飼料処理事業者での取り組み事例について)。</p> <p>3. 講演会開催 (3月27日)</p> <p>農林水産省生産局担当者ならびに県内畜産経営者を講師に迎え、「みんなで考えよう - 農業・食料・環境と地域のこれから」というテーマで、食料自給率向上ならびに食品循環資源の飼料利用に関する政策及び事例における課題などについて、研究会メンバー、県担当者、消費者・学生などを交えたシンポジウムを開催。</p> <p>(2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与, 広がり)</p> <p>本年度は事業初年度となるため、基本的に研究会及びシンポジウムに限定した活動となっている。しかしながら、研究会では、次年度以降の課題として、食品循環資源の飼料利用を促進するため、シンポジウム以外のイベント等で周知活動を進めることも検討課題となるなど、関係者以外への働きかけの萌芽が確認される。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>三重県農林水産部との協定に基づき、県主催事業と本事業との連携が図られている。具体的には、県が研究会、本事業はシンポジウム等と機能分担が図られている。</p>

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

シンポジウムでは学生の参加を促すことで、学生の地域理解のみならず、SDGs のひとつである資源・環境問題への理解醸成を図る（3 月シンポジウム）。また、研究成果として本事業での調査事例とした県内畜産経営での食品循環資源の飼料利用における流通システムの隘路について、日本農業市場学会全国大会（2018 年 7 月）にて報告を行った。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

名称：「みんなで考えよう -農業・食料・環境と地域のこれから」

講師：農林水産省生産局 乳製品調整官 金澤政尚様
株式会社大里畜産 代表取締役 木戸利信様

場所：三重大学人文学部専門校舎

共催：三重県エコフィード等利活用研究会

人数：60名

日時：2019年3月27日 14:00 - 16:30



開会挨拶（学部長，三重県農林水産部）



金澤様による講演

木戸様による講演



フロアからの質疑



(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

事業初年度のため、本年度は研究会メンバーにおける意見交換及び市民への周知活動に注力している。また、従前は事業者間での活動に限定されていたが、消費者における理解醸成の必要性が認識された。これに基づき、次年度以降、シンポジウム以外の方法で理解醸成を図ることが検討されている。